

ボールの特性レポート

BALL REPORT



ボール名 RAW URGE	投球者 徳江 和則	センター 平和島スターボウル
RG 2.500	△RG 0.056	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール

テストボール：ロウ・アージ

フレアーの幅 インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤

PAPからピンとの距離 **5** インチ

番

4in1/2 MB

比較対照ボール：アージ

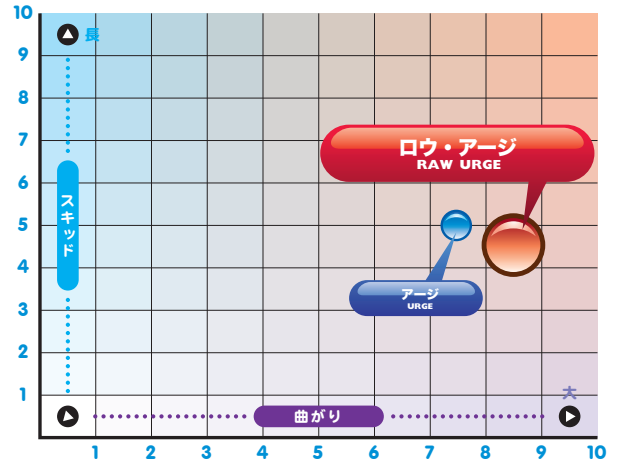
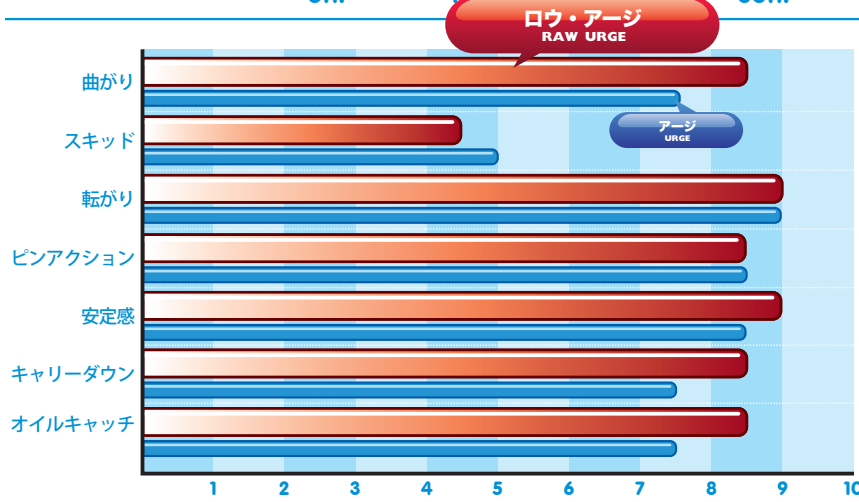
フレアーの幅 インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤

PAPからピンとの距離 **4** インチ

番

4in1/2 MB



ボールの評価

独創性のあるIronman Coreと初の採用となるAR350 Solid Reactive Coverstockとの組み合わせで、強いネジレ感のあるCoreに強いCoverstockでMedium Heavy～Heavy Oil対応のボール、URGEの最新作RAW URGEを紹介します。RAW URGEはURGEのHybrid ReactiveからSolid Reactiveに変更することで、今までのURGEのキャッチよりも早くさらにネジれる特性を開発コンセプトに生まれました。RAW URGEはURGEよりもスキッドが短くなることでブレーキが強くなります。そのブレーキがMid Laneでの強さを感じさせ、結果オイルに対しての安定感を出しています。

私はRAW URGEを投げるとブレーキのかかるイメージがありますので、しっかりと振り切ってあげることができます。手前のオイルをやや多く使ってもはじかれるイメージはありませんし、Ironman Coreの特性もあって、縦目に転がしても横にローテーションを入れて投げても相応にperformanceの出方が変わりますので、ややオイルがある状態であれば使える用途は多く感じます。キャッチはやや手前から出ようとするイメージと△RGの数値が高い特性もあり、Hook期にパワーは出始めるものの、Roll期に強い反応の良い角がでるReactionを感じるので、入射角も取りやすいのではないかと思います。またピンアクションは重厚なやや硬めに低く飛ぶ分類で、両サイドのピンをしっかり叩くイメージあります。

このボールはABS Team Columbia 女子キャプテンの岸田有加プロもキャッチと曲りが非常に気に入っているという報告も受けています。SWERVEからColumbia社の開発も急激に進んでいて、世界を賑わす日も近いと思われます。

特記事項

レスポンスの高いAR350 Solid Reactive とネジれる動力の大きいIronman Core。ややスピードを上げながら直線的にラインを取って勝負するには絶好です。